

建築家・坂倉準三と高島屋の戦後復興 ——「輝く都市」をめざして——

[会期] 2021年9月15日(水)-2022年2月13日(日)

[会場] 高島屋史料館TOKYO 4階展示室

[監修] 松隈洋(京都工芸繊維大学教授)



■展示風景

高島屋創業190周年記念展

建築家・坂倉準三(1901~1969)が設計した、知られざる高島屋和歌山支店(1948年)を起点に、その後の高島屋難波新館改増築・ニューブロードフロア(1950年)、南海会館(1957年)における、坂倉準三と高島屋の協働を紹介した。また、こうした高島屋との仕事、坂倉の都市デザインの代表とも言える「東急会館」(1954年)や、「新宿西口広場・地下駐車場」(1966)へと接続していくことを紹介した。

本展では、文化庁国立近現代建築資料館が所蔵する貴重な坂倉準三資料から、多くの初出図面、写真等を展示した。また、京都工芸繊維大学松隈洋研究室の協力により、和歌山支店模型(1/100)、和歌山支店CGを作成して展示した。さらには、当時の関係者として、藤木忠善氏(建築家・元坂倉準三建築研究所所員)、山田脩二氏(建築カメラマン)、また、当時の関係者である東孝光氏ご息女 東利恵氏(建築家)らにインタビューを行い、映像作品として放映した。

《展示資料抜粋》

序章 「坂倉準三と高島屋の出会いと、戦前の仕事」



■坂倉準三と高島屋は、1937年のパリ万博の仕事を通して出会った。
中央のポスターは、日本橋高島屋8階にて、1937年1月22～27日までパリ万博
出品物の事前展示会を開催したときのもの（高島屋史料館蔵）。



※本展は、青幻舎より松隈洋著
『建築家・坂倉準三「輝く都市を
目指して」——高島屋の戦後復
興にはじまる都市デザインへの
挑戦』(2021年12月10日)として
発刊されました。

コラム「坂倉準三と高島屋」

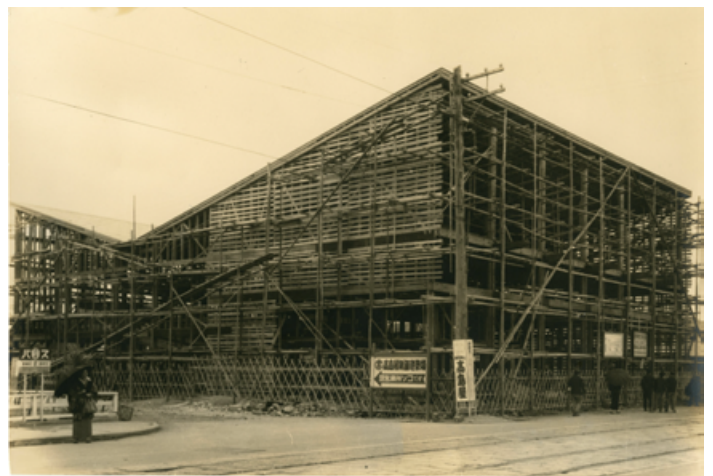


- 「選択・伝統・創造」展(1941年)、「ル・コルビュジエ、レジェ、ペリアン三人展」(1955年)など、高島屋と坂倉準三の協働は、百貨店の建築だけにとどまらない。

第1章 「高島屋和歌山支店(1948年)」



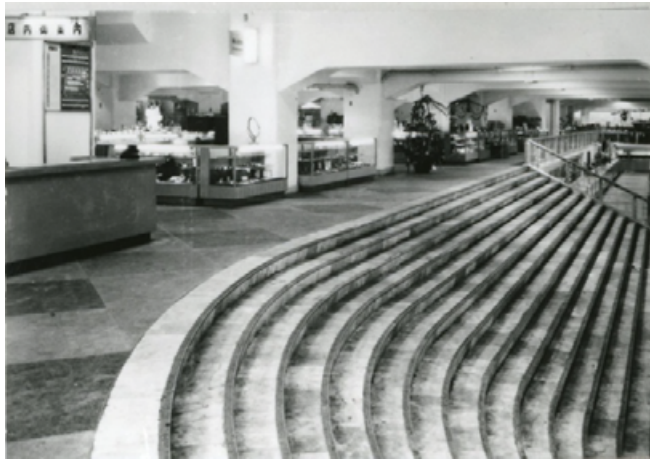
■戦災復興の象徴として、高島屋和歌山市店の設計が坂倉に依頼された。
本模型は、文化庁国立近現代建築資料館から資料提供の協力を受け、
京都工芸繊維大学松隈洋研究室(大友沙弥、西口友晃、萩尾涼太、福井雅幸、
松田寛太、真鍋好古、水野まりや、矢野孝明)によって、本展のために新たに
制作されたものである。



■和歌山支店写真(高島屋史料館蔵)

第2章 「高島屋大阪店(1950・57年)」

高島屋大阪難波新館改増築・ニューブロードフロア(1950年)



■ニューブロードフロア写真(高島屋史料館蔵)

南海会館(1957年)



■写真、絵葉書、掲載雑誌など

第3章 「建築から都市デザインへ」 渋谷東急会館(1954年)



■竣工パンフレット、図面、写真など

新宿西口広場・地下駐車場(1966年)



■インタビュー映像、写真、図面、竣工パンフレットなど